シカゴ大学留学記

海外リポート

三宅幹夫*

はじめに

シカゴ大学化学科Leon M. Stock教授（石炭化学）の所へ1987年4月から1年間の留学が決まった。さっそくニューヨークにいる義兄に資料を送付願った。その内の“シカゴのしおり”（シカゴ日本商工会議所発行，344ページ）という本の記述「(シカゴ大学は)危険地帯の中にあってひとつの別天地を形成している」が目に飛び込んできた。偶然，阪大産研からH博士が同化学科に留学中であることを知り，手紙で問合わせたところ「まずは安全，安心してお出かけ下さい」との返事。Stock教授より送ってもらったパンフレットにも「Hyde Park（大学のある場所）has one of the lowest crime rates in Chicago」とある。

不安51%，期待49%の気持ちで予定通りシカゴO'Hare空港に到着。出迎えて下さったH博士とリムジンバスで先ずは確保していただいているアパートへ向った。Kennedy Expressway，片側3～6車線。新御堂筋並みに混雑した中100km/hの猛スピードで旧型のリムジンバスがガタガタ走る。ボロボロにさびた車，ドアをガムテープで止めた車，マフラーを引きずって火花を散らしながら走っている車，これらがフラッシャーもつけずにどんどんと前へ割り込んでくる。「アメリカ人はせっかちなんですョ」とH博士。「ところで，半年程前日本人学生が殺されましてネェ。まあ，むちゃなことをしなければ何も問題ありません。まあ，安心して下さい。」と笑顔で言ってのけたH博士。こうして留学生活が始まった。

*三宅幹夫(Mikio MIYAKE)，大阪大学工学部，応用化学教室，助教授，石炭化学，石炭工業

シカゴ大学

荷物をアパートに置いてさっそく大学へ。徒歩30分で着く。あちこちに教会の塔がそびえ，鐘の音が聞こえてくる。彫刻の施された門をくぐると広い中庭があり，周りはいずれもゴシック様式の石造りの建物。中でもFrank Lloyd Wright の作になるロビーハウス（1909年）は有名で国の文化財に指定されているという。いままでの不安を吹き飛ばす程すばらしい環境である。

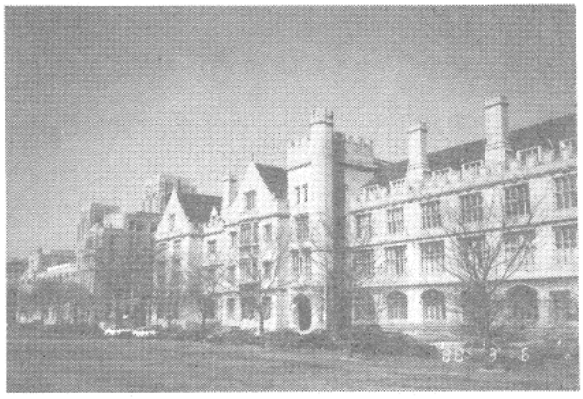

写真1　シカゴ大学の学舎。ゴシック様式の建物が大部分である。

シカゴ大学は1891年，Jhon D. Rockefellerによって設立された私立大学で，原子力の連鎖反応が1942年にここで成功したこと（大学内にHenry Moore作“Nuclear Energy”の彫像がある)，卒業生や教官等の大学関係者の内から55名ものノーベル賞受賞者を輩出したことで有名である。大学は，生物科学部，人文科学部，物理科学部，社会科学部，および，大学院専門課程（経営学，法学，神学，図書館学，Pritzker医学校，社会事業学）より成り，化学科は物理科学部に属する。学部学生3254名，大学院生7177名，教官1125名で，80%の学生が大学院へ進学するという。ちなみに1988年度の大学入学競

争率は6.3倍。また，大学院の最難関は，日本と同様医学校で，昨年度は受験者2062名に対して合格者301名であった。しかし，医師の過剰（給与の低下），医事訴訟の頻発を反映し，競争率は10年前の約半分に低下したという。

建物環境がすばらしいだけでなく大学の運営費4億ドル（1986—87年，病院関係を除く）から予測できる通り，大変整った設備を有している。化学科にも世界初になる500MHz NMRをはじめ，分析器機はすべてそろっている。しかし，一番驚いたのは図書館である。3つある主要図書館のひとつ，Liganstein Libraryには5万冊以上の日本の本が整っている。政治，歴史，文化，風俗，文学といった研究対象となる本の他，朝日，読売，日経新聞はもちろん，文芸春秋，週間朝日，太陽，暮らしの手帖，各種名簿，等々。日本人スタッフまでいる。中国，インド等他の国々の本も同様で，アメリカの底力を感じざるを得ない。

Stock研究室

Stock研究室は，ポスドク4名，大学院生4名，技官2名，秘書1名の所帯である。Stock教授は化学科のChairmanであるため多忙をきわめ，電話を切るとすぐに次の電話がかかってくる，という毎日である。しかし，どんなに多忙でも研究について相談にいくといつも笑顔で，「Please come on in」と迎えて下さる。実験がうまくいかない時等は，解決策を見い出すまで何時間でも真剣に考えて下さる。頭の下がる思いがする。隣のP.Eaton教授は3ヶ月間のドイツ出張中，研究室に毎週国際電話を入れ学生達1人づつの報告を聞き指示を与えたという。

大学院生は皆非常に熱心である。毎日深夜まで実験しており，土，日曜日も必ず出て来ている。これに比べ，ポスドク連中は比較的のんびりとしており，週末には家族サービスに努める人達が多い。なお，研究室に所属する大学院生には，月額900ドル程の“給与”が教授のFundの中から支給されており，年間2万ドル近い授業料も免除されている。

治安について

シカゴ大学はダウンタウンの南約10kmに位置する。東はミシガン湖，他の三方は，“シカゴのしおり”に書かれていた通り，いわゆる“危険地帯”に囲まれている。大学関係者の80%が住む大学の周辺2km内は大学およびシカゴ当局が治安の確保に格別の努力をしている。大学には，Security Department（俗にUniversity Poliseと呼んでいる）が有り，10台以上のパトカーを所有。これはもちろん赤色灯を付けた緊急自動車

写真2　たのもしい存在。シカゴ大学のパトカー。

で，シカゴ市警官と同等の権限を持つポリスが乗車している。また，地区内105箇所にUniversity Police直通の緊急電話が設置されており，ボタンを押すだけで直ちにパトカーがかけつける仕組である。夕方6時から深夜1時（図書館の閉館時刻）までは，大学の無料バスが4ルート運行され，夜道を歩かなくてもよいよう配慮されている。私もこのバスを利用しているが，乗車時間せいぜい10分の間にシカゴ市警，大学のポリスを合わせ，少くとも5台以上のパトカーを見かける。シカゴ当局も当地区に10台程度のパトカーを投入しているものと思われる。レストランで見かけたシカゴ市警官は，制服の下に防弾チョッキを着，腰の他，わき下にもう一丁拳銃を所持していた。

学生新聞に犯罪件数と発生場所が載るが，それによると人口47000人のこの“安全”な地区内での件数は週に80～130件。少し古いが1982年1年間の全米の犯罪件数1300万件（人口10万人当り5.5千件）の統計値に基づくと本地区の発生率は全米平均の約2倍となる。なお，日本の犯罪件数は200万件であるから，その約6倍と見積もれる。小生の滞在中にも，物理学教室内で

大学院生が殺されたのをはじめ，化学科の建物内にもドロボーが入り，パソコン，タイプライター，天秤等が盗まれた。毎日１回はサイレンの音を聞くが，こちらの人達は案外平気で，美人の女子学生が深夜１人で歩いているのを見かけることもある。アメリカ人にとっては，ここは安全な場所なのかもしれない。

アメリカから見た日本

化学科では週２回有名教授を招いて講演会が開かれる。講演の中で必ずといっていい程日本人化学者の仕事が重要な部分で引用される。特に著名な外国人学者を招待しておこなわれる特別講演会（Lee Lecture）に昨秋は東京大学の岩村秀先生が選ばれたことは，日本人として大変誇らしく感じた次第である。日本の化学レベルは今や世界のトップ，と言っても過言ではあるまい。

アメリカは輸入の国である。食料品以外はほとんどが輸入品。聞いていた以上に日本製品が多く，自動車，タイプライターからシャープペンシルに至るまで氾濫しており，しかも，いずれも絶大な評価を得ている。電化製品，カメラ，時計等は日本企業どうしの競争が激しい。テレビのコマーシャルで日本の自動車メーカーＭＩ社は「（日本の）Ｎ社車よりも安くて豪華」と宣伝をくり返している。また，最近進出が著しい韓国の自動車“Hyundai”は，日本のホンダと発音が酷似していることを付記しておく。

終わりに

周りを危険地帯に囲まれているので，ショッピングはミシガン湖沿いの高速道路を使って大回りをしなければならない。この高速道路，Lake Shore Driveからの景観は大変すばらしく，右手にミシガン湖，正面に威風堂々たるダウンタウンの高層ビル群が見える。中でも世界一高いシアーズタワー（1974年建造，110階建て，433m，小売業全米１位のSearsの本拠地），同４位のスタンダード石油ビル，５位のジョンハンコックセンターが目を引く。シカゴ市は人口300万人，1982年にロサンゼルスに抜かれたため現在は米国第３の都市である。商工業の町で，その性格が大阪と類似しているが，両市は姉妹都市の関係にある。昨年11月の大阪国際女子駅伝にシカゴ大学チームが姉妹都市ということで招待されたが，予想通り？参加30チーム中最下位であった。優秀な学生が集まるがスポーツはあまり盛んでないという点で，阪大とシカゴ大とは，また，似ているのかもしれない。